



# 六甲山魅力再発見市民セミナー

市民セミナーVol.83  
六甲山のミツバチからの  
メッセージ/小室 哲郎  
2010年2月発行



六甲山上の養蜂場

## 第83回テーマ： 六甲山のミツバチ からのメッセージ

### 講演内容

- 六甲山の天然はちみつ
- 六甲山での定置養蜂
- 六甲“産”の  
魅力づくり



講師：小室 哲郎さん  
プロフィール

1941年生まれ、68歳、東京出身。1963年大手繊維会社に入社。70年篠山市にて、自然農法による農産物の生産。96年「養蜂業」を営む。2000年生産地を西宮市山口町に移す。03年六甲山上に養蜂場増設。「ROKKO BOSS」とも呼ばれている。

実施日：平成22年2月20日（土）  
午後1時～3時20分  
場所：六甲山地域福祉センター

## 六甲山にも春が近づいている

快晴の六甲山の記念碑台周辺は午前10時で3℃、二つ池環境学習林の日陰になると1℃と寒さを感じました。午前中の環境整備は、8名のボランティアで定例の観測調査を実施しました。近畿自然歩道沿いの日当たりにはアセビの花芽が色づいて、春が近いことを教えてくれました。

## 元気を運ぶROKKO BOSS

昨年秋に小室 哲郎さんに入会申し込みをいただきました。さっそくお会いし六甲山で天然はちみつに精魂を傾けられていることを知りました。昭和38年から六甲山を走り回り、03年から六甲山上にミツバチの養蜂場を増設し、オーナー会員制で運営されています。

「こんなに元気な人が六甲山にいたのか！」と感激しました。

今回のセミナーで参加者全員が豊かな話題と天然はちみつを通じた実践で磨き抜かれた博識に接して感動された様子でした。



ハチの働きを語る小室さん

## 天然はちみつを通して自然の恵みを知る

講演のために生かしておいたミツバチの巣箱、試食用のはちみつ、六甲の味噌、六甲の塩も持参されました。冒頭で「ミツバチは、いくつくらいの仕事をしていますか？」と問いかけ、①はちみつをためる、②花粉を集める、③ローヤルゼリーやプロポリス、④蜜蝋、⑤食用（ハチの子）、⑥蜂針治療など、話題を発展されました。

「国産」や「純粋」と称して売っているはちみつと、何も足さない・何も引かない100%そのままの「天然はちみつ」とのちがいを分かりやすく説明され、本物の「天然はちみつ」を生産し、理解を拡げようとする強い意欲が浸透しました。

かつて、アトピーの子どもさんに、「食は医なり」と自分が作ったものを食べさせたことが発端で、自然の恵みを大切にされてきたとのこと。実体験に支えられたお話は説得力が豊かでした。

講演の終盤は、六甲山で残っていた最後になる味噌造りのVTRを放映して、六甲“産”づくりに関心を注いでいることも紹介されました。また、六甲山の手造り塩を試食した皆さんは、「おいしい」と感嘆しました。「六甲山のミツバチ・・・」というテーマですが、実は皆さんが小室さんの生き様からのオーラを浴びたようでした。生き物・自然・歴史・生活など多様な面から触発されて、活気づけられたセミナーになりました。

## 六甲山における生産活動を注目したい

六甲山上に養蜂場があることは意外でした。小室さんのお話しでは六甲山は適地であるとのこと。リゾートという消費地の固定観念が覆された思いを抱きました。六甲山には生産地としての魅力も潜在していることに眼が開かれました。

※詳しくは、1、2ページをお読みください。

## 参加の感想 本田 勝也さん

今回たまたまインターネットで、市民セミナーの募集を知り、是非お話を聞いてみようと思い参加しました。

講師のROKKO BOSSこと小室氏のお話は、実際に養蜂を長年続けてこられた経験に基づくもので、市場におけるハチミツの状況に始まり、丸秘の桜の蜜の集め方まであっという間の3時間でした。最後になりましたが、講師の小室氏はじめ、今回のセミナーを企画して頂きました事務局の皆さまに感謝申し上げます。有難うございました。



主催：六甲山を活用する会

協力：兵庫県立人と自然の博物館

後援：兵庫県神戸県民局、灘区役所、神戸市教育委員会

## 【助成金をいただいている機関】

イオン環境財団、大阪コミュニティファンド、公益信託自然保護ボランティアファンド、公益信託TaKaRaハーモニストファンド